



全住民アンケートで地区の将来を

現在、1年間に約1万人の人口が減少している和歌山県。地域の様々な仕組みが維持できない恐れが高くなる一方で、地域ニーズの高度化・複雑化も進んでいます。地域の今後をどのようにしていけばいいか、各地で試行錯誤が進んでいます。今日は地域づくりのあり方を検討する手法のひとつ、「全住民アンケート」をご紹介します。



田辺市新庄地区で行われている住民ワークショップ
この地域でも「全住民アンケート」の準備が進められています

この取り組みは継続？それとも見直し？
15年ほど前に話題となった「事業仕分け」。国が行う事業の成果を国会議員等がヒアリングし、継続させるか見直すかをその場で決定していく様子を覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。事業仕分けは一部の地方自治体でも実施されるようになり、現在も開催されているところがあります。

現在、人口減少や高齢化が進んだり、共働き世帯が増えたりして、様々な活動の担い手不足に悩む地域において、このような「事業仕分け」をおこなうとしたら、どうでしょうか。
地域の様々な活動や取り組みには、①法律・条例等で実施が義務付けられているもの、②行政機関側の事情や要請により行わなければならないもの、③地域の文化や慣習として長年継続されているもの、④まちづくり・むらづくりなどの観点から近年になって実施されるようになったもの、など多様な性格があります。

なかには十分な効果が期待できないにも関わらず継続されているもの、本音ではやめたほうがいいようなものがあるかもしれません。ひよつとしたら担い手不足のなか無理を重ねているものもあるかもしれません。しかし、その取り組みが①や②のような理由で義務付けられているものであればなくすのは困難です。また③や④についても、様々な思惑が交錯することで見直しは困難というケースも少なくありません。

全住民アンケートとは
自治体などが住民向けに実施するアンケートは各世帯の1人が代表して回答するものが多くなっています。仮に4人家族の場合、代表者の1票はアンケートに反映されますが、ほかの3人の意向は結果にあまり反映されない可能性があります。これでは地域の住民の意向を十分に反映したもとはいえなくなる恐れがあります。

各地で行われている「全住民アンケート」は、主に中学校区程度のエリアで、中学生以上の住民全員を対象とするケースが多くみられます。地域の将来を担う中学生や高校生世代の意見も聞き取りたいという考えが背景にあります。

代表1人が回答
回答しないため意思を汲みとれない
全員が各々回答

現在、田辺市新庄地区で予定されている全住民アンケートの項目案の一部。これらについて重要度と満足度を5段階で評価してもらおう計画。ほかにも困りごと、地域に活かせるような資源などの質問が行われる予定。

1. 地域の付き合いについて
2. 道路・河川の維持管理について（草刈り・河川掃除など）
3. 地域内の美化・環境保全について（植栽・側溝清掃など）
4. 消防活動について（防火・救命講習など）
5. 防災活動について（避難訓練・避難所運営訓練、連絡体制など）
6. 防犯・交通安全活動について（見回りなど）
7. 施設の維持管理について（公園・町内会館など）
8. イベントについて（夏祭りなど）
9. 地域の伝統文化の継承について（秋祭りなど）
10. 地域の歴史に関する保全・管理活動について（史跡など）
11. 主に高齢者対象の行事について（敬老会など）
12. 生涯学習関連の活動について（サークル、教室など）
13. 健康づくり活動について（健康体操、〇〇教室など）
14. 生きがいつくり活動について（寄り合い、サロンなど）
15. 地域のスポーツ大会について（ソフトボール大会など）
16. 生活支援活動について（見守り、弁当お届けなど）
17. 移動支援活動について（買い物・通院など）
18. 主に子ども対象の行事について（子ども会、子どもクラブなど）
19. 子どもの安全を支える活動について（登下校の見守りなど）
20. 子育てなどの相談ができる場や人について
21. 保護者同士が交流できる場について など



横断歩道での一時停止率が上がったって
いいことだね

和歌山は30.1%で全国40位
ひと昔前よりも上がったね

でも悩ましいこともあるんだよね

横断歩道近くでうろうろしている人...
疲れるかどうかいちいちうろ...
うろ...
うろ...

【参考文献】
「ソシオ・マネジメント」Vol.6
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 2018年発行
<https://blog.canpan.info/iihoe/>

結果からみえるもの
地域には様々な組織があり、それぞれ目的で活動しています。その活動内容は地域住民のみならず十分に浸透しているものばかりではありません。世帯の代表者が世帯全員のニーズを地域に対して十分に代弁できないとみられます。
(志場久起)

市民のみならず、企業のみならずのご寄附がSDGs達成につながります！

わかやまSDGsパートナーシップ基金へのご寄附のお願い

みんなの力でSDGs実現を！

国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成には、世界のあらゆる国、あらゆる主体が参画することが求められています。ここ和歌山の地で、SDGs達成に向けた取り組みを進める産・官・学・民の連携を進めるための基金「わかやまSDGsパートナーシップ基金」を運用しています。
今年度は、SDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」に向けて活動する県内のNPO・ボランティア団体を応援します。

事業の流れ

1. 本事業の趣旨に賛同いただいた和歌山県内外の個人・企業のみならずから、1口3,000円でご寄附のご協力をお願いします。
昨年度は70組の方から合計224,000円のご協力をいただきました。
2. 集まったご寄附の額を元に助成事業枠を設定し、支援を希望するNPO・ボランティア団体の募集を行います。
昨年度は3万円×10団体＝合計30万円の助成枠を設定し、募集を実施。36件のご応募をいただきました。
3. わかやまNPOセンターが設置する審査委員会（外部委員を含みます）による審査をおこない、支援の優先度合いが高いと判断された団体に助成を実施します。
支援件数はご寄附の集約状況により変動しますが、今年度も3万円×10団体程度の支援を計画しています。
4. ご寄附いただいた方には、翌年1月頃に「寄附金受領証明書」をお送りします。確定申告により所得税等の控除

が受けられます。

※ 来年の確定申告での控除の対象となるのは、今年12月末までにわかやまNPOセンターに入金いただいたご寄附です。クレジットカードでの寄附は決済から入金まで時間がかかるため、来年の確定申告での控除をご希望の場合は、恐れ入りますが12月末までに着金できる決済手段でのご寄附をお願いします。

5. 事業終了後、各助成先のご寄附額を公開します。

ご支援の方法

- ▶ 1口3,000円から受け付けます。現金によるお支払いのほか、銀行振込（振込手数料はご負担ください）、クレジットカード決済（振込手数料はかかりません）がご利用いただけます。
- ▶ 次年度以降も継続してご支援いただける場合は銀行口座からの自動引落、クレジットカードからの継続決済のご利用が可能です。詳しくはお問い合わせください。
- ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。個人の方は確定申告により税額控除が、法人の方は損金算入限度額の引き上げが適用されます。

くわしくは専用ウェブサイトをご覧ください。クレジットカード決済によるご寄附申し込みフォームもございます（右のQRコードからアクセスできます）。

<https://congrant.com/project/wakayamanpoc/7170>

【運営】
認定特定非営利活動法人わかやまNPOセンター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp
【事務所不在時、電話は和歌山県NPOサポートセンターに転送されます】

